

開化新題歌集

大久保忠厚編輯

全

4

4342

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

大久保忠源編輯

開化新題歌集全

恒堂花標

吾はらをきくひふそふも忠意乃  
たぐもたよつけきりの出をさる  
あましとひひかふこといふも  
乃かきもきくやあはれいゆる  
あし開化の近代とあまき  
西洋の國とむらむをきくも







4  
4342

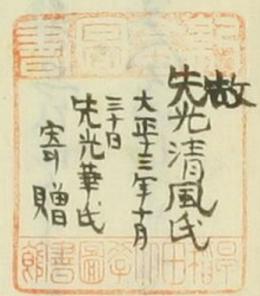
りぬきありては  
海を渡るは

明治二十一年十月

星野子



開化新題歌集



東京 大久保忠保編輯

大陽曆

一はのののふなふもはけゆく世の志すいえたり

きまてしなきいよの音あり初夕月のほろかなりけ

はとさふしはをむしきあは月結露こころ

あふりの河き道はまうり月の名さへは降りし雪

あふりの河き道はまうり月の名さへは降りし雪

新年宴會

こころまの年のくめはうしけをいやとよ波して我もさひり

君の世のつきをぬ年ふむくつ数もあまはれたまふに記

ふれさをとよふあふりりりりと待し皇の照る

横山 由清

星野 子

藏田 信中

岡野 伊平

近藤 芳樹

林 信立

増山 正同

由清

紀元節

電信機

年のちよいともかこ権系ふは世よりけつその日を  
 首後 良照  
 加原ふあしりし代を万世いやくのそたあやくうあめ  
 伊予  
 こよはれかよきこれい風のまらきささひなきせをり  
 三條西 季知  
 出れやあてまつひ一はちふらふはも時のるやて  
 本居 豊穎  
 わる外國より國を隣りてこよ節の志なくもこれ  
 飯田 年平  
 稲つ日の光のまよもみるまじこえてちうくまのまばさ  
 中村 秋香  
 時の月よちさをのよふ稲つまのたより隣まは世もまら  
 木場 清生  
 風のむくまきつら一神の世のおつすもあひかきま  
 棟渡 容盛  
 世にひまきとひはうそまらうあまの底もようあ便い  
 鈴木 重嶺  
 まぬいたる人をやちもまらぬいふのますも又字とあま  
 屋代 柳漁

雪のけりるるいふよもまらうあまの底もようあ便い  
 前島 逸堂  
 かのあひりかひはうりあまをこまひするそあやうなる  
 高橋 蛸庵  
 雁のの翅何きんち里まてこまはうあまありなる  
 西川 廣微  
 外國のよまきたよりもひま節のいふれい海とあちじ  
 竹内 吉菅  
 打をへしあもあ甲れあふちあまのあまきこりて  
 小原 燕子  
 海山のはるけきなるも一すちのいふかまあ里のあつて  
 正同  
 いんち里いふもあははのまにあふこはかまのりて  
 由清  
 かけまら系おと節よさあくのこまをさそち里ゆらふ  
 岩間 政養  
 たぬまれくひくい節のいふまらち里とくひてまらこま  
 田中 美暢  
 かけまら系おと節よさあくのこまをさそち里ゆらふ  
 平野 真守

梓弓ひくひと海のりといれいこのふにほの玉は結りて  
 風のとほほのほとと一筋のいよこしうてきんち阿中は  
 河川のいよこしうてきんち阿中は  
 千里ゆく席もおきり一時のまはあひうちのかまふこは  
 梓弓矢うもはやく風まもと記さうさ何よたと一登  
 指はるの光にまきてあも那是のたよりい何よこし  
 ことのみまふりよこしうてきんち阿中は  
 山田の光のほりもあまもさうよあ便りのいよこし  
 國といよこしあまもはうあまもくくくくくくくくくくくく  
 層よの知もかじし玉つあやああああああああああああああ

山中 大観  
 上月 亮  
 白刺 恒久  
 伊藤 好清  
 天田 元貫  
 島山 茂  
 玉城 重清  
 山田 則壽  
 藏田 重時  
 伊平

郵便

時のるよちさふかよああああああああああああああああ  
 ぬらうああああああああああああああああああああああ  
 あれやあ天をせつひ知えてかああああああああああああ  
 あ里をも今い傳とむつああああああああああああああああ  
 此ああああああああああああああああああああああああ  
 あすう川帯さうりのせようてああああああああああああああ  
 ああああああああああああああああああああああああああ  
 層ああああああああああああああああああああああああ  
 皆人もあああああああああああああああああああああああ  
 宛つけゆくはせのめらあああああああああああああああああ

亮  
 伊東 祐命  
 棟渡 盛愛  
 伊豆 春信  
 澁村 鶴雄  
 重松  
 志保 伊賀志  
 桃井 直恒  
 松沢 翠  
 梓井 鴻緒



汽車

起しより思ひをりもをやくれ  
 結こゝのたうぬほせそおひをり日  
 わさうの便りも今いまこころ  
 しのめあぢりかきまほり  
 見せせいらりい  
 年月をむりい  
 知えそをほをかける  
 打あひく烟のすゑと共  
 すみゆくは雲の姿い  
 附のるこふ里をける

佐々木 言 範  
 長谷川 安 邦  
 子 之  
 由 法  
 風 公 紀  
 望 辰  
 大 熊 福 五  
 八 木 恒 久  
 祐 令

はる神をくく思をいあつた光よ  
 のやあんとく  
 人や三のあも  
 雲まふひ神と  
 けり  
 はふり  
 すき  
 む里  
 多々り  
 つま

年 平  
 宍 箒  
 由 清  
 帽 鹿  
 柳 漁  
 若 林 悦 静  
 金 秋 彦  
 重 時  
 牧 野 伸  
 大 岡 花 々

停車場

汽船

烟丁うす小こえきゆりくと乃もあもも時あまゆて  
 ちりまゆ浪よりうりはれも船は波たこあうこるも  
 やあさうちよふもよ立たあさうも志なくなれは世に  
 うまうちよふもよ立たあさうも志なくなれは世に  
 仲きとらふあひりあしほをわけてるまのあふも阿の  
 阿しほふらうあちりあし船をまのあをける就りまに  
 世をやすくとるも舟とあれもあほのあはれさう危  
 火の神のこまあまちりあまなれはほまほをけいそそあ  
 風あちりあまのあ船をそとみり人のちりあさう  
 筒井つあちよあぬ筒柱らうあさうさういほらあ  
 大平 港 年平 彫 宮 蓋 小 之 船 庵 近 藤 光 範 由 清 大 島 真 菫 足 正 聲

飛脚船 軽気球

たああまてあさうらりのまあまほてあまきあまあ  
 世とたこの海坂をそとみりあまのあまのあまのあま  
 ちりあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあま  
 棹りあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあま  
 浪のうりあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあま  
 解使はとらうりあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあま  
 ちりあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあま  
 石炭をやくとあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあま  
 横りあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあま  
 世のあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあま  
 大平 港 年平 彫 宮 蓋 小 之 船 庵 近 藤 光 範 由 清 大 島 真 菫 足 正 聲



人力車

いまのそとあつらひてあつちゆくゆつとありれなるか  
 日るゆつとひきかしてあつちゆくゆつとありれなるか  
 小車の前とあつちゆくゆつとあつちゆくゆつとありれなるか  
 此らに言まひ申し相おちてあつちゆくゆつとありれなるか  
 人の言まひ申し相おちてあつちゆくゆつとありれなるか  
 汗あえて引ゆくゆつとあつちゆくゆつとありれなるか  
 すきゆけい引ゆくゆつとあつちゆくゆつとありれなるか  
 ち弱めとあつちゆくゆつとあつちゆくゆつとありれなるか  
 ち弱めとあつちゆくゆつとあつちゆくゆつとありれなるか  
 おつちと引ゆくゆつとあつちゆくゆつとありれなるか

廣徳  
 務旌  
 松 久子  
 柳 敏  
 松 忠  
 八木 朝直  
 風 安  
 磯 最信

小学校

ものあけをるるあつちゆくゆつとありれなるか  
 勢うひく小車もせようやくやくめくゆつとありれなるか  
 大勢ゆくあつちゆくゆつとありれなるか  
 思ひまわつちゆくゆつとありれなるか  
 杖のあつちゆくゆつとありれなるか  
 花もさきみもありいとむめくゆつとありれなるか  
 里の子もあつちゆくゆつとありれなるか  
 作るゆつとありれなるか  
 ち弱めとあつちゆくゆつとありれなるか  
 ち弱めとあつちゆくゆつとありれなるか

吉菅  
 信立  
 金 明善  
 春信  
 赤 宗四  
 萩光  
 奇子  
 主殿  
 久回 標為  
 逸查







幅幅今

まじしきつらけりしとる志きさうひひけゆる境なりれ  
 長谷川 安資  
 暮き志ぬかきよつたすしに暮きぬ代のこれと大君  
 村 靈定  
 むしうのまきあふ親の親の志つは親よともあまを  
 大久保 忠保  
 ゆつしる名をたうひをばよの目のでりをさるりいあうの午  
 行 道  
 午とけり杖もなうてちやくうひしけゆく夢な志とさう  
 最 信  
 かくらうり寤けもゆるかさほ一まうさをも杖よつく世とぬ  
 山 謙益  
 らやと人さうつれてゆくきぬ今ふ夢のゆけきもさやうり  
 宮 盛  
 夕まこれ花うりありの午すれにる日さうてすしうり望  
 京 徳  
 中くよられ杖とかりりの名は口けさほやもさるる  
 海 玉  
 面をれ一のちよらまのころひを杖よくさるこれの猶午  
 久 栢

氷賣

ふさふさ杖もつきてうりわりれわらぬ世うや徳  
 近 芳介  
 冬市取よ比きくおまけに反さ日さうんちうはまれ  
 京 永  
 むきほらんもとけすしきにちまよおきくおんり  
 行 道  
 杖を眠うさあめちお氷うらおきくうりすしきいあ  
 松 平 親貴  
 とらとたりのそきああお氷ひさくあうさうすしうりり  
 美 暢  
 市くよ氷を比きくあき人の友をさるもうらまへんらま  
 柳 漁  
 いちまよよ比きく氷いあき月のあつき日けよかへんやま  
 柳 直  
 いり一のつよのうらまきしとまへんお氷のとゆる日そなは  
 重 嶺  
 ふはゆも大はよ比きくあき月岡錦地のあきやとらひき  
 宮 盛  
 ふ老のよのそきよまゆるあき月のもちありまもゆる水  
 藤 光





玻璃窓

百鬼にめあつてさうさうふはつとをまぬふの火の也  
 年平  
 かしきふきふきしりしりさうさうさうさうさうさうさう  
 存光  
 とちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとち  
 信立  
 名のみと丸さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
 雕  
 とちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとち  
 行道  
 やまのねとちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとち  
 塔山  
 くれのやちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとち  
 古久子  
 とちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとち  
 年平  
 傳一さるる風さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
 大服  
 篠翁  
 けしけくさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
 燕子

瓦斯燈

玉地のほやまふすきとちとちとちとちとちとちとちとちとち  
 法生  
 美う代のこれもめくもさへちとちとちとちとちとちとちとち  
 廣微  
 やまのちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとち  
 重胤  
 法入のあうりをかすのちとちとちとちとちとちとちとちとち  
 柳漁  
 花けけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけ  
 小  
 子之  
 重時  
 まつくとちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとち  
 淡  
 あうりつちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとち  
 恒久  
 かきうあうりつちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとち  
 小  
 秀真  
 ちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとち  
 安邦

石腦油



今に世よりまざる井のぬすも人のなほよまざるなり 子

浮標 うち志す一底のうつりもかたれ海に沖津舟渡のきつ信のこ 貞董

換震楳 いうしほりうそのなせて地の時もさる事なくくあつる子 祐家

洋画 いうはく心くたてたうきさき草のいろとりぬやくはて 隆

活版 むりうれうの橋木うきそのめりゆ梅の世も志すもを 重遠

摺附木 けしけくさきさかひる人さるあつ世のりもさるるう 忠保

石盤 仮その人のちううつる火を石よ乃ともおひらうき 弘子

石盤 難は海を石のうくまかたれまのふれ世に何といはし 安邦

石盤 砥石川をぬすもあて石の上よか多なり一の横けり木 廣徳

石盤 石中しひ拭いていうきぬらひていうきしつさぬりのぬく 子雲子

葛被 とひかけり衣もやえん人もまこころむれあて越えちと 重時

勿大小 雨あぬときもあつるおほくもそらうしと花もあ名れ 廣徳

勿大小 何平う布うもろくれきる人のおしうきよはひとちみ母 安邦

断髪 束の身もたうしうきとる所と髪も結りぬ人をおほく 安資

断髪 結ひそ髪の時とくまねうも出神代の手うくうと衣 逸堂

断髪 かきあつこれにきうもあつるけりき老の髪さてやむむ 宮盛

断髪 いさ日れもそとまきううとさあそんは玉うけはなうに 子之

断髪 つまき古刀つこの園も志つとんを借まこち世といあつあ 跡見 重敬

断髪 秀代の手そのとけき古刀けしてむらう人し形もれり 柳漁

断髪 杖の雲消るのほいうちあそんせやく力もあぬ乃心 幸磨

断髪 宮崎 幸磨



ちりけりきたりあやうし一色なれとかくらうりきりまたんせ 年権

警視分署 八ちまをさつてつたに警署の神のつとをふおとさうりせ 五求富

巡査 ぬいぶのうらひるをえぬめれとも程あつばいたんとりうま 意辰

磯ちぬ一本の杖のいうりておとさくも伸ばしらば 押漁

ちりばとあやうしきりうらうりくけてめらみまめ 榮

たつさし一木つとさうりをたのまをいそむも邪君の極威を 廣徳

徴兵 さにさうかひのまよひのうさむけをりくしよ衣まうい 室原

練兵 四しけをさまはる世もそのふらつよいけをあじりる 慶永

むそあんはあてんれにさあくの人のんもひつとをさる 成路

くろくこのまはひきまそとらけるらあ兵をぬくし中野系 逸查

近衛兵 らあひいんさあの一のあ柄ひらむるそのゆくうらとら 千之

陸軍 ころるの右よりくう言なめさすくしをのまうちまき 右江

陸軍 指けたは旗かこころうも向らん仇いあうしとをさる 市川

陸軍 相影のまひの窓の剣を力くうくもは代の光あうりせ 榮

陸軍 屍はい学お又一らうくもくをさるれをそ大君の為ふ 五求富

海軍 とりよらひいり不肖を便る船りいする仇波もや 重胤

海軍 平をさむるあもつとつらつらうちつとひぬる波をさつらふ 善徳

軍艦 けり一の枯舟のあうりあも出てあうり百舟八島りく 勢隆

燈明臺 ころ玉のあしめちとあむむは代の光をさうりま 貞萱

さうてあうりあはれもやすまにあうりまうりまやち一右の親 秀生

佃島燈臺

博覧會

救世の光を照らす人々の名を記す  
大 観

ふりもつてはそとに百の光を照らす  
由 法

はげしくはせりあはれに國のものを  
公 紀

さきへの心をいかにしむるに  
正 同

くまひの富を夢にすくはれし  
宮 盛

人のよかきはなれしに  
子 之

思ひまやひけりて  
廣 徳

とつてはそとに百の光を照らす  
吉 茂

昔あはれにすくはれしに  
玄 風

まのあはれにすくはれしに  
風 有 則

博物館

國立銀行

あつたなるに人々を  
小 之

四方の玉をすくはれしに  
七 貫 川

くまひの富を夢にすくはれし  
佐 立

あはれにすくはれしに  
あ 邦

一はれの心をいかにしむるに  
佐 立

くまひの富を夢にすくはれし  
倉 世

祝をおきて隣のをちを  
金 知 明

民権  
議院論

洋 教

金 知 明





杉山昌隆

製鐵 黒くはをらうらまきまも一まきの留氣のちうをらうらう

狭道 往うらなもとや狭のちちある時りあつたひ人

聖を境 おうひそ及とそつれ鈕方カさやをさるらうらうの聖

聖を境 きめうらう一とこれいもやあなまあまのあのか山

種痘 ぬあうらうあまのまらもぬらうれや久遠の神のあま

種痘 おのうらうやむを結ああぬせいもつたの神やまらあは

種痘 阿やあまのはもてうしとそんよう安きうらう種をうる庭

種痘 忠隆の人のまきと辨けりうらまの神ハはもあは

杉山

昌隆

逸堂

由清

聖堂

子之

実盛

一実

信立

柳恒

逸聖

牛肉 みの梅のむうとぬまうらうあうらうあまのたのむら

牛肉 昔あおまき心かたれまやまのふまてうらまをうしとあひひ

肉店 生るまハ振つもあるをあらうらうしと思ぬこれのかりひ

男女同権 をとま一尾むとやうらうそりうらうかうらうらんとすむ

男女同権 ぬらあうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう

男女同権 庭つまきいぬまきそまもめいあつらうらうらうらうらう

男女同権 一の川やや名つたうらうらうらうらうらうらうらうらう

男女同権 お奇とい隆うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう

男女同権 しのうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう

男女同権 太まふのほうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう

昌隆

恒久

春位

重胤

信立

柳恒

信立

柳恒

信立

信立



和魂

諸の身を捨ててうらうらと旅のほれと涙きやまじり世

重茂

罪昭日形

山の井の跡ききひそあつらふ日ゆくものすくせ世

吉幸

京朝  
歌仙  
集

あつらふ身をいれくううをいれおまけりり理

忠臣

僧侶毒帯

志づけりきさうのを一のさうさふいれおまけりり理

正久

鶴鳥権

うかすことれり思ひむさうをうかすひうりするのひきを

在光

宝内院

みくらむとすれぬ世にうら初のたのこさたすも昔よは似

柳漁

新都

うらうら志あつれ神代うらうらうの産田の里

芳樹

西畧休咄

おろきと異はえんととてひよゆほほはく君うらまの

明善

幸遇  
用明世

やわけてやめくあつた代ひひけぬ家心かうりう

芳樹

日曜日

むかしうらまうあつたうらまうのうらまうのうらまう

文樹

洋大

むかしうらまうあつたうらまうのうらまうのうらまう

和秀

権妻

うらまうのうらまうのうらまうのうらまう

柳漁

文化日形

むかしうらまうあつたうらまうのうらまうのうらまう

福正兄

士族

むかしうらまうあつたうらまうのうらまうのうらまう

子之

士族

むかしうらまうあつたうらまうのうらまうのうらまう

伊平

士族

むかしうらまうあつたうらまうのうらまうのうらまう

伊平

士族

むかしうらまうあつたうらまうのうらまうのうらまう

松名

士族

むかしうらまうあつたうらまうのうらまうのうらまう

忠敏

士族

むかしうらまうあつたうらまうのうらまうのうらまう

柳漁

士族

むかしうらまうあつたうらまうのうらまうのうらまう

柳漁

士族

むかしうらまうあつたうらまうのうらまうのうらまう

柳漁

廣官

さきさきと世の君やあつめむきよむらさきさきさき

信立

幼祖園

二枝よりさくらのちよやふくしとあるむの宮をたはちん

秀貞

うあつ子うあひの宮よこのちの花さく世をたはちんき  
母のひさまたておみとおつらうおひていもあやあなるむ

あつこよりさくしんとは中のまきよすあやあたすこ  
わきよかたうらうらをまきよのちのあもうけあさうん

はの子のよとほしうひは文もまきよをさめむ世と年危  
そ景のさうろをく年ううせのたね今うらうせ

馬車思座

今よりハ時のあつそひたうらうらう田のさうひたまきん

祐永

新道き官

うれとにゆりあつ横あつれ海と人の仔とあつ井

宮盛

汽船出港

山田

祐永

地祖改正

家禄を還

信立

存還金

二十日まそつらよふゆいそれもあまうらふとあつまで

柳漁

禄券

うらもせんかひもさあてそよ玉のまよすうせて我はあつ

千之

大和杖

これやこの儀うられやま杖もさき人丁そつこくうらうせ

柳漁

斜座つ

時のき一人のすうと志しとさううこけうらう門の座と

子之

賞勳牌

日の何やをそひうとおひてあつる考しと今そかやく

雕

貸産券

日のまの志と首よかけまうらうこよ玉のあつる考し

反求書

貸産券

うられあやとん人よるとそうれもまあつやれやと

吾信

貸産券

すれ人うひとあつらつあつ杖とまきよとうらうれあつ

最信

娼家言

人いふに物けなきともいふにあぬこれの言は

柳漁

隠 賣

此れをいゆきの姓松志をれりかたれもさう取らむ

幸磨

取らむと云ふにや中へいふ子をやとすといふは

柳漁

徴毒検査

ありありぬあはす妹よりもなりあやれうらやむと

詠志 浪

皆人よます阿はきとををぬて病とさるや病いふは

加 子 浪

る一さいりせよちれり玉も病阿はてさる方とぬれを

信立

定かこぞむす谷の奥まをいせの光のおとひらるは

柳漁

初古方さやうさうをを吹て病なき玉を指ひらるは

存光

娼妓解放

いとゆあめくといけぬとさうもやう世のまをさるは

祐象

つふううほくこのうれて廣き世をおのふよけけり

朝直

招魂社

いさやうくまを阿られ玉のなるとたきし玉のやうに

信立

神まをいりらるるれいそのかしの烟いさるをさるは

柳漁

世の魂は國の中の人をうた令捨てし名にすくは

重胤

國のなるとかとききりすく玉のなるとよきか

明善

臨時 招魂祭

よひうれてよりくももいぬさうさうのなよあはけ

宮聖

魯士戦争

とらむといひてあやまきく煙うれあれ人茶

清矩

徒 罪

大船のつくとさうてはれ本もまよさうの時やゆり

歌子

懲 役

いと竹もあうて控ぬいて他よりれるは世のあまこり

柳漁

これあめのつと神なきさうとも赤き心をとすは人

号一

黒水流燈

すくす川まをさるよのう燈火も星をほらすは

由信

松のよき... 松村 月  
 松の門 三軒子  
 長谷川... 皇親  
 一は... 皇親  
 さあ... 忠臣

作者姓名 ●八故人

土手三番町 廿一番地	伊東祐命	猿樂町三丁目 八番地	從七位飯田年平
麻布永阪町	伊藤好清	猿樂町二丁目 三番地	市川重胤
佐州小木町	伊藤成路	佐州加茂郡 港町	伊藤春信
佐州相川 八百屋町	岩間政養	佐州相川	伊東寛
関口町 十番地	從五位林信立	佐州小木	岩村すゑ子
佐州相川 濁川町	長谷川安邦	佐州相川	畠山 茂
佐州相川 夕白町	長谷川一貫	浅州新平右衛門町 一番地	長谷川安資
牛込赤城下町 七十番地	星野千之	赤坂田町四丁目 四番地	西川廣微
			力石重遠

下谷中從町三丁目 五十番地	小俣景徳	新橋竹川町 十七番地	岡野伊平
牛込東五軒町 二十九番地	小原秀真	坂亮町三丁目七番地 為替會所	小原燕子
下谷中從町一丁目 十五番地	從五位脇坂安斐	佐州四日町 大願寺	若林悦静
牛込南山伏町 十一番地	從四位風早公紀朝臣	佐州相川下京町	上月亮
日本橋敷奇屋町 二番地	加藤干浪	四谷仲町三丁目 七番地	加藤安彦
牛込天神町 三十二番地	金井明善	下六番町 廿三番地	加部巖夫
佐州金田新田	金田知明	鞆町七丁目	烟田真幹
佐州小木	風間安	佐州小木	風間有則
佐州赤泊	金子秋彦	湯島辰岡町 乃廿番地	從六位横山由清
佐州相川	吉村美充	赤坂一本町 七十三番地	瀧村鶴雄

舊濱月岡町官邸 芝神明町二番地寓	高橋蝸庵	駿河臺西紅梅町 口三番地	竹内吉菅
佐州相川	田中美暢	越後宮半	高野春栖
佐州相川	高野文樹	佐州相川弥十郎町	玉城重清
本所松井町	坪井鴻緒	佐州小木	塚原幹磨
羽後國秋田郡山田邑	鶴久子	猿樂町十九番地	中村秋香
佐州河原田	中島守孝	小石川水道町 十四番地	中島歌子
佐州相川一丁目	中山立恭	佐州河原田 常念寺	村田靈定
赤坂一本町二番地	猪坂修	神田稚子町 卅一番地	野村松月
牛込南町廿六番地	大岡花郷	小日向水道端町三丁目	大橋及求齋
	大脇讓翁	市谷藥王寺前町 四十七番地	多門正文

神田錦町一丁目 十番地	大島 貞薰	下総国葛飾郡柳村	大塚 尚
神奈川三空寺	大熊 辨玉	佐州相川坂下町	大平 淡
佐州山ノ神	大瀧 茂雄	牛込東五軒町 二十四番地	大久保忠保
牛込北山伏町 十三番地	久間 榊翁	佐州相川米屋町	藏田 重時
佐州相川米屋町	藏田 年雄	佐州相川	藏田 信中
下六番町七番地	正七位八木 雕	浅草栄久町 五番地	屋代 柳漁
飯倉片町廿六番地	山田 信興	佐州菘港	八木 朝直
佐州相川八百屋町	山中大 觀	牛込廿騎町 廿四番地	山田 謙益
越後柏崎	山田 則壽	越後柏崎	山田 真幸
佐州相川八百屋町	山田 和秀	佐州相川八百屋町	山田 倬

小石川水道町	正二位松平慶永卿	浅草北三筋町 一番地	從五位松平親貴
猿樂町十二番地	從五位増山正同	本所緑町五丁目 十九番地	増山 之雪子
本所松井町一丁目 十番地	増山 喜久子	牛込北町十八番地	松平 忠敏
佐州赤泊	前島 逸堂	京橋上榎町 十八番地	松廼門三草子
佐州相川	松澤 翠平	佐州相川	牧野 伸
佐州小木	松田 美政	牛込納戸町廿四番地	正三位藤井行道卿
佐州相川	古城 俊平	佐州相川	藤木 啓
相州箱根湯本	藤木 福謙	越後柏崎	藤 卷重威
四谷仲町三丁目 十四番地	福住 正兄	三番町十番地	從五位木場清生
	從七位近藤芳樹	下谷西黒門町 十二番地	小中村 清矩



牛込有町 廿六番地	小出 榮	芳樹男	近藤 芳介
小石川諏訪町 四十二番地	近藤 廣徳	牛込築土八幡町	近藤 正郷
越中国水橋	近藤 光範	小日向竹島町 四十三番地	小林 翠山
佐州小木	戀塚 伊賀志	佐州小木	後藤 伴平
牛込築土八幡町 八幡境内宮	江刺 恒久	佐州羽茂本 三番町五十九番地	海老名 義明
佐州小木町	海老名 由道	市ヶ谷山伏町 十八番地	從六位 足立 正聲
中猿樂町 十三番地	跡見 重敬	佐州小木町	赤澤 宗四
佐州相川	赤江 橋賢	下谷中徒町一丁目 十二番地	天田 元貫
神田錦町一丁目 十五番地	正三位 三條西季知卿	武州多摩郡府中 大國魂神社境内	從六位 三田 葆光
四ッ谷尾張町 七番地宮	猿渡 容盛		猿渡 盛愛

下谷車段町 三十四番地	三田 花朝尼	佐州相川	佐々木 高範
佐州鹿伏	佐々木 秀禎	佐州相川	佐野 磯平
駿河臺南甲賀町 十八番地	佐野 磯平妻佐子	佐州小木安隆寺	菊地 日亮
佐州相川大工町	宮崎 幸磨	牛込赤城神社 境内宮	美濃部 鶯一
佐州相川三丁目 濱町	美濃部 楨	佐州相川	白井 幸彦
下谷仲徒町三丁目 十三番地	平野 真守	佐州小木琴平宮 神官	廣橋 庭世
牛込神樂町一丁目 五番地	本居 豐穎	佐州小木	桃井 直恒
佐州小木正覺寺	從五位 鈴木重嶺	牛込北山伏町 三十五番地	杉山 昌隆
	首藤 法水	法水男	首藤 良照
通計百二十六名			

明治十一年九月三十日御届  
同 年十一月十日刻成

編輯人  
出版

大久保忠保藏版

第四大區十小區  
牛込東五軒町廿四番地

東京  
賣弘

小石川大門町廿一番地  
日本橋通四町目  
小石川水道町七番地

雁金屋清吉  
金花堂  
金幸堂

*(Faint bleed-through text from the reverse side of the page)*

